随想

「船頭町」子どもの頃の思い出

高司良恵
（会員　佐伯市宇山区）

船頭町の商店（その三）

（9）履物店

横丁に武林、下本丁に渡辺・山野内、浜丁に中川の履物店四店と、ゴム靴の加嶋商店が新丁にあった。加嶋商店は石油店が本業で、ゴム靴を売る店は別に筋向いの四つ角に店があった。

子どもにとって履物店はあまり関心がなかったが、正月や盆が近づくと、履物店は人の出入りも多くなり、活気づき忙しさを増し、履物店は徹夜しながら鼻緒を立てていた。

当時、船頭町の浜には船の出入りが多く、浦の人達や近郊の農村の人達は慣習として、正月や盆の贈物は、履物が多かった。それぞれの履物店は、古くからのお得意さんが決まっていた。店は間口を広く、店先に台を置いて、日常履く下駄を並べて売っていた。店の奥には、大きなガラスの陳列戸棚があって、高級品の履物が飾られていた。

また、店の天井には、仕入れたとりどりの鼻緒の束が吊り下げられていたが、別珍の黒（男物）・赤（女物）の鼻緒が人気があり、好まれていた記憶が残っている。

●渡辺履物店は、おばさんひとりで店をてきぱきと切りもりしていた。当時、娘のフミ姉を佐伯高女卒業後は東京の洋裁専門学校に進学させ、卒業後、履物店を二分して洋裁店を開き、活気ある商売をしていた。

●山野内履物店は、渡辺履物店と筋向いにあったが、農村の知り合いが多く、店内はいつも話題が多くにぎわっていた。

●横丁の武林履物店は、間口を広くとり、かなり手広く商売をしていた。陳列戸棚がいくつもあって、種類も多く、高級品がずらりと並べられていた。当時、佐伯には検番があり、履物を買う芸者さんの姿も見られた。また、女の子には、正月が近づくとこっぽりげたを買うために、母と一緒に行ったことを覚え

ている。晴着を着て、こっぽりげたを履いて、友達とまりつきや追い羽根をついて遊んだものだったが、戦争の波に押され、芸者さんや晴着姿も見られなくなった。

●中川履物店は、浜丁にあったのであまり行くことはなかったが、お父さん・お母さんとお二人で商っていた。

私は履物店の中で、渡辺・山野内履物店には気安く行った。長い厚い台があり、仕事場は畳が敷いてあった。台の下には鼻緒を立てる小道具の箱があり、中には釘・鋏・槌などがあった。客には丸い椅子が用意されていた。

鼻緒立ては、なんといっても履き心地がよくなければいけないので、経験と熟練が必要で、店の評価にもつながった。鼻緒立ての仕事を見るのが好きで、手際よく下駄の三つの穴に、うまく紐を通してぐるりと裏返して、紐の始末をしたり、表にして指を差し入れて、加減を調べたりする仕事を見るのは、大変楽しかった。

「さあ、やっと済んだ」と、注文毎にまとめ、正月・盆を前に、大きな風呂敷を持って受け取りに来る人達を、よく見かけた。履物を贈られた家は、床の間に高々と飾っていた。

子どもにとって、下駄よりもゴム靴の方が魅力があった。加嶋の一ちゃん方に買いに行った。自分の文数を言うと、おじさんは数多い箱から、月星マーク入りの靴を取り出して履かせてくれた。プーンと新しいゴムの匂いが、なんともいえない嬉しさをさそった。しかし、ゴム靴は、下駄より早々に店頭から姿を消してしまった。

一世を風靡繁盛、船頭町商店街に一役を担った履物店

横丁　武林履物店跡

下本丁　山野内履物店の跡

も、葛・港に変わってからは、客足も少なくなり、戦争という時代の波にその影が薄くなり、閉店の止むなきに至った。

過日、船頭町の在りし日の履物店を訪ねてみたが、どの店も跡形もなくなり、貸し駐車場やそのまま空地になっていた。

横丁の武林履物店の跡は、道路から少し奥まった所に、住宅が建てられていた。

渡辺履物店は、履物・洋裁の店も閉じて元屋文具となり、商いをしていたが、閉店して取り壊され、貸し駐車場になっている。

加嶋靴店の方は、やはり取り壊されたまま空地となり、雑草がなにかしら時の流れを淋しく感じさせられた。

現在、武林履物店の娘さん・静子さんは嫁して東京都町田市に、山野内履物店の御長男は中山団地、中川履物店の御長男は市内に、渡辺履物店・洋裁店の娘さん・静子さんは元屋印刷に嫁がれ、加嶋の一ちゃん・まさと君お二人は故人となり、現在、家族の方は上岡で石油店を立派に受け継いで、営業を続けている。

子どもの頃の船頭町の思い出を綴り乍ら、時代の流れ、自分の寄る年波を思う時、一入(ひとしお)今昔の感がする。船頭町を歩いても淋しい限り！誰ひとり声をかける人もなく、気安く立ち寄る店もないが、まだまだ頑(かたくな)に店を守り続けている方々に、是非、踏ん張ってほしいなあと願いを託す気持がいっぱいである。

私達を育てはぐくんでくれた船頭町の数々の思い出は、いつまでも心の奥に原風景として生き続いている。

新丁　加嶋油店経営　くつ店の跡

下本丁　渡辺履物店跡　向うは大日寺の裏